

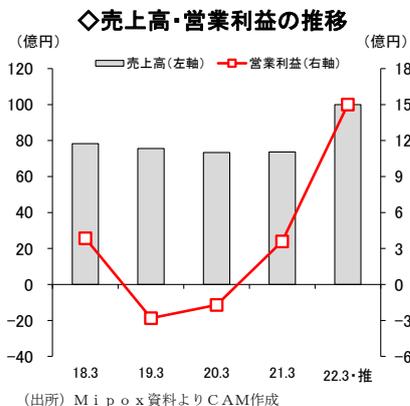
企業ニュース Mipox

(東証スタンダード : 5381) <http://www.mipox.co.jp/>

作成者:村上大志

精密研磨材、研磨装置を扱う総合研磨材メーカー

1925年創業の総合研磨材メーカー。顔料と色箔の輸入業者として始まり、1960年代に箔の塗布技術を応用して研磨フィルムの製造に成功、1980年代には精密研磨材や研磨装置を扱う総合研磨材メーカーとしての地位を確立した。1990年代に半導体や液晶パネルなどの研磨装置を開発し、超精密研磨領域に参入。現在は製品提供から受託加工、コンサルティングまでをトータルに手掛けている。製品事業では、研磨フィルムや液体研磨剤、研磨装置といった研磨関連製品の製造、販売を行う。受託事業では、半導体用途を中心にウェーハをはじめとする材料の研磨加工サービスを提供する。21.3期のセグメント別売上高構成比は製品87%、受託13%。



製品、受託事業ともに好調

22.3期・第3四半期累計(4-12月)の連結業績は売上高が78億6,200万円、前年同期比50%増、営業利益が13億5,500万円、同430%増。製品はハードディスクや光ファイバー、半導体など収益性の高いハイテク向けの売上が拡大し、大幅な増益を達成。受託は半導体関連の受託研磨サービスの需要が増加し、赤字だった前年同期から黒字転換した。

22.3期の会社計画は売上高が100億円、前期比36%増、営業利益が15億円、同317%増。5月13日に通期決算を発表予定。会社計画は期中に3度上方修正されており、達成確度は高いとみられる。好調な受託では、次世代ディスプレイ用部材の生産が本格稼働し、受注が拡大している。半導体関連では、EV(電気自動車)などの電力効率を高めることが可能なパワー半導体材料のSiC(炭化ケイ素)やGaN(窒化ガリウム)といった難加工材料向けサービスの需要拡大が期待される。受託事業の拡大を受け、2021年11月に新工場の取得を発表。生産能力増強で事業規模の拡大が見込まれる。製造現場のDX(デジタルトランスフォーメーション)化にも積極的に取り組んでおり、業務効率化や省エネの推進による収益性の改善にも期待したい。

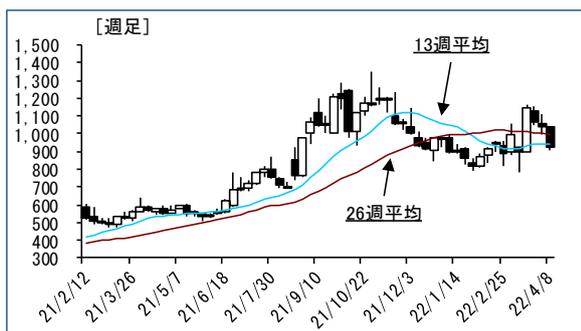
[株価動向・投資判断]

国内外の半導体メーカーからの需要は増加しており、業績拡大に期待したい。加工サービスの拡大で収益の安定化も見込めよう。

<5381 Mipox 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	7,338 (▲3)	▲170 (-)	▲165 (-)	▲78 (-)	▲6.7	0.00
21.3	7,361 (0)	359 (-)	301 (-)	87 (-)	7.4	0.00
22.3推	10,000 (36)	1,500 (317)	1,500 (398)	1,300 (1,394)	104.9	15.00



[主要株価指標]	(売買単位:100株)
株価(2022/4/8)	925円
年初来高値(高値日)	1,167円(22/3/18)
同安値(安値日)	783円(22/3/8)
予想PER(22.3推)	8.8倍
1株株主資本(PBR算出用)	457.0円
PBR	2.02倍
予想配当利回り	1.62%
(1株当たり配当金年15.00円)	
ROE(21.3)	2.1%
発行済み株式数	1,428万株